

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第 46 号

令和4年(2022年)
7月1日 発行



積乱雲のいたずら、ゴジラ現る！（豊中市上空）

昨年、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。その関連で東京近郊では大規模な再開発事業が行われ、より住みよい地域となったことでしょう。東京に限らず国内で多くの開発事業が行われ日々、新しい風景をニュースなどで目にしています。

そんな中、外国人旅行者へ「自分の国で誇れるところは？」とインタビューをされている動画をみました。あるインドネシアの人は「日本より経済的・物質的にも劣っています。ただ毎日のんびり家族と笑顔で幸せに暮らしているところが誇れます」と回答していました。

確かに日本は、インドネシアに比べ経済的・物質的に豊かです。しかし現在の日本人は今は幸せと感じているのでしょうか。物質的に豊かになったとしても、「もっと欲しい」と繰り返す欲望はとどまることがありません。

今回、インドネシアの人のひと言から、物質的に豊かになることが私たちの幸せなのかと考えさせられました。

（寿栄松正顕）

と う ひ が ん 到 彼 岸



おんどうぼう
御同朋と呼んでくださる

あしな あきら
妙圓寺 葦名 彰

当の友とはどういう存在なのかを法然上人から教わりました。それが親鸞聖人の大切にされた聞法の道標みちしるべだと思えます。

同じところ

法座のあと「私は親鸞聖人が好きだ」と、若い人たちに話す総代さんがおられました。若い人が「それはなぜですか？」と尋ねると、「私たちのような煩惱にまみれたものを御同朋と呼んでくれた方だから」と言われたそうです。私たちに対して御同朋と呼んでくださることを温かく感じておられたのでしよう。

親鸞聖人もまた、御同朋といえる本

『歎異抄』にこのような会話があります。「念仏しておりまして、おどりがるような喜びの心がそれほど湧いてきませんし、またはやく浄土に往生したいという心もおこってこないのは、どのように考えたらよいのでしょうか」と弟子の唯円が親鸞聖人に尋ねたところ、「この親鸞もなぜだろうかと思っていたのですが、唯円房よ、あなたも同じ心持ちだったのですね」とお答えになったとあります。このとき唯円は、生きることに對して不安と悲しみを感じながらも励まし合いゆる救ゆるし合ゆるって共に如来に救われていくことが同朋ということであると、親鸞聖人に教わったの

だと思えます。

共に尊いいのち

また親鸞聖人のお手紙にこのようにも記されています。

とも同朋にもねんごろのころのおわしましあわばこそ、世をいとうしるしにてもそうらわめとこそ、おぼえそうらえ。（『御消息集』）

お念仏の教えは、共に尊いいのちをいただく同朋に、人を慈しむ温もりと共に伝わります。それこそがお念仏をいただいたしるしであるところのお手紙は教えてくださっています。

人生のあらゆる場面で励ましてくれる友と互いの尊いいのちに感謝して、ただ念仏して生きていくのが、御同朋の深い意味であると思えます。

（令和四年七月）



如^{によ}是^ぜ我^が聞^{もん}

今を生きる

四国教区 常円寺 櫟原秀光師
いちほう ひでみつ



とらわれ、それを当たり前にしていたのです。

南無阿弥陀仏のお念仏は「一人ひとりが比べる必要もない、ありのままで尊い命なんだよ」という阿弥陀さまの喚び声です。

佛光寺チャネルより櫟原師の「今を生きる」を聴聞させていただきました。

き合わなければならぬという厳しいお言葉です。

せなんやよ」と想いを口にされました。

代わる者なし

私たちはずっと健康で長生きしたいと願いますが、そうならない身の事実があります。そのことを『仏説無量寿經』には「身、自ら之を当^あく。代わる者有ること無し」とあります。

つまり自分の身の上に起こる出来事は誰にも代わってもらえない。自分で背負い、向

その言葉の意味を二十一才で亡くなられたご門徒から教えてもらいました。

彼と生前に話をした時です。「自分は生まれながら心臓が弱く、今まで何度も手術をしてきたが二十才まで生きられないかもしれない」と、さらに「不思議やな。この心臓は意識してないのに、動いてくれている。そのお陰で生きていられる。そして心臓が止まった時、僕は死ぬ。でも今がホンマ幸

今までは当たり前だと思っていた自分の命が「かけがえない今を生かされている有り難い命」であったと、そして「老病死」していく命の姿を目の当たりにしました。

阿弥陀の喚び声

私はお寺の僧侶として、わかったような顔をして、人前で話をしていながら「やっぱり若さ、健康で長生きが人生」という、自分の思いに

その喚び声にどう向き合っていくのか。これからも聞き続けていきたいと改めて思うとお話しくださいました。

映し出された姿

聴聞して「衣を着て、人前でわかったような顔をして話をしていた」という言葉にドキッとし、「かけがえない今を生きているのか」と問うたとしても頭で考えてばかりで、自分の身に置き換えられない姿を感じました。

(玉出宗順 記)

みのお そうだ！箕面に行こう！



箕面萱野駅周辺(今年4月に撮影)



同駅完成予定図



オレンジゆずるバス

滝道の入り口から箕面の大滝までは徒歩で約40分ですので、足腰に自信のある方や、日々の運動不足を解消したい方は是非、挑戦してみてください。(中井翔隆)

大阪メトロ御堂筋線と相互直通運転を実施する北大阪急行の延伸が2018年に決定しました。現在の最北端駅である「千里中央」駅より北側の箕面市まで延び、「箕面船場阪大前」駅と「箕面萱野」駅の2駅が2023年に開業予定となっています。

計画は50年前から

この延伸計画は1970年大阪万博終了の直後から存在していましたが、計画が進むことなく、数十年が経過していました。

この計画が再び動き出したのは、「箕面船場阪大前」駅の駅前に大阪大学箕面キャンパスが移転したことで、「箕面萱野」駅横にあるみの

おキューズモールが存在することが大きいでしょう。

また箕面各所を走るオレンジゆずるバスは昨年、可愛らしくリニューアルされたばかりで、新駅近くのバス乗り場から乗車することが出来ます。見ているだけで楽しくなるこのバスは地元の方の便利な交通手段ですが、気軽に観光を楽しむこともできます。

特にオススメはバスで阪急箕面駅まで行き、箕面公園滝道入口で、まずは名物のもみじの天ぷらを食べ、景色を楽しみながら歩いていくと、大滝を目指す遊歩道から少しはずれたところに、西江寺の敷地内にある古くから写経場として利用されていた歓喜庵が2020年にリニューアルし、現在は本格的なイタリアンを楽しめるお店となっています。

滝道の入り口から箕面の大滝までは徒歩で約40分ですので、足腰に自信のある方や、日々の運動不足を解消したい方は是非、挑戦してみてください。(中井翔隆)

ごえんさんを訪ねて

こうだいじ 光台寺 (大阪市東淀川区) きむら こうしん 木村 光伸 住職 (長平)



光台寺は、元は妙花山と号し、天正6（1578）年10月13日、時岡入道西善が東成郡沢上江村（現都島区都島本通り）に創建。第10世、親暁師の時、昭和20（1945）年6月7日の大阪空襲により伽藍は焼失しました。第11世、円暁師が光台寺を継承し、昭和25（1950）年頃、大阪市東淀川区菅原町に移転、その時に山号を暁徳山と改められ、光台寺の新生を期されました。その後平成16（2004）年には大阪市の都市計画に基づく道路改修工事に伴い、同じ町内に寺基を移転、現在に至っています。

20歳で住職に

住職は滋賀県長浜に生まれ、中学2年生のときに得度されたそうです。祖父である円暁師の後を継ぐ志を立てられましたが、急逝により20歳の若さで光台寺住職となりました。



法要にどの衣体で臨むのかも知らぬまま、右も左もわからずに住職になり、大変な苦労があったとのこと。

色々勉強しないといけないと一念発起し、先師に教えを請い、本山御堂式務衆になられるなど研鑽を積んでいかれたとのこと、「これが私の出発点です」と若かりし頃のことを語っていただきました。

現在まで58年間住職を務められ、声明、法式作法、衣体への造詣の深さを極められ、本山の研修会などで長年、後進の育成にもあたってこられました。私も住職になったばかり

本堂内陣

の頃、それまで適当にしていた切袴の畳み方を丁寧に教えていただきました。

また、何でも自分で作られる手先の器用さで、自坊はもとより大阪別院の本堂の音響設備なども手作りされました。

これからは

半世紀以上にわたって住職を務めてこられました「これからは若い人の活躍を後ろから静かに見守っていきたい」と仰っています。長年お寺に携わってこられた住職の責務の重さに触れさせていただいたことです。

（佐々木 太二）

■光台寺（こうだいじ）

〒533-0022

大阪市東淀川区菅原1-11-17

電話 06-6328-2866

Fax 06-6328-2866

大悲トピックス

■新役員紹介

大阪教区の法友会（住職会）、さつき会（坊守会）ならびに佛青懇和会（青年会）の新役員が決定しましたのでご紹介いたします。（敬称略）

法友会

- ▽会長・寺田宗隆（報恩寺）
- ▽副会長・善本和彦（本光寺）
- ▽書記・佐々木雅人（西圓寺）
- ▽会計・道野真弘（超願寺）
- ▽監事・藤澤泰人（唯信寺）
- ▽理事・寿栄松正顕（西光寺）

さつき会

- ▽会長・玉出みゆき（光福寺）
- ▽副会長兼会計監査・松山恵（光曜寺）
- ▽会計・寿栄松富美江（西光寺）
- ▽書記・隅谷智春（高照寺）

佛青懇和会

- ▽会長・門川崇志（浄方寺）
- ▽副会長兼会計・松野正暁（光念寺）
- ▽書記・中井翔隆（最勝寺）
- ▽監事・和田正智（慈光寺）
- ▽監事・脇阪義仁（霊松寺）

■お悔やみ

謹んで哀悼の意を表します。

第六組・報恩寺

寺田宗信様（3月4日寂）

第三組・超願寺

道野真澄様（4月10日寂）

第二組・報徳寺

三上了道様（4月30日寂）

■懇志御礼

東京都台東区 西徳寺様
滋賀県草津市 専念寺様
滋賀県大津市 専光寺様
新潟市西区 瑞林寺様
滋賀県守山市 西光寺様

人工芝施工・内外装工事・サイン・ディスプレイ・テント



協和産商株式会社

<https://www.kyowa-ss.co.jp/>

本社：大阪市東住吉区今川8-1-14

TEL:06-6702-5722 FAX:06-6702-5732

御本山 用達

株式
会社

川勝法衣店

フリーダイヤル 0120-075-055

（〒600-8344）京都市下京区花屋町通油小路東入

電話 (075) 371-0367(代)

FAX (075) 371-5088

創業100余年・お墓の専門店

石留石材株式会社

土日祝もご相談いただけます（8時～17時）

0120-53-5578

■本社：大阪府藤井寺市津堂2丁目9番29号

和奏の会 翠笛会

寺院のイベントに邦楽（尺八・箏）出張演奏いたします。

曲目はリクエストできます。

事務局：阪南市新町 宝林寺

電話 072-472-1414

<http://homepage2.nifty.com/suiteki/>

浜屋は関西最大級の
お仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の
専門店です。

やすらぎの
世界を創る



浜屋

お問い合わせ
お申し込みは

通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル

0120-1616-94

●受付時間／午前10時～午後6時30分

お墓なんでも相談センター

とわ おも かたち かえ
永遠の想いを像に還るお手伝い



ヨシザワ

株式会社 吉澤石材工業所

フリー
ダイヤル **0120-49-1482**

だいひ 絵日記

- 4月13日(水) 大悲の会編集会議(第46号読み合わせ)(オンライン会議)
4月28日(木) 大悲の会編集会議(第46号読み合わせ)(オンライン会議)
5月16日(月) 大悲の会編集会議(第46号読み合わせ)(オンライン会議)
5月25日(水) さつき会総会 ①
5月25日(水) 大悲の会編集会議(特別号読み合わせ)(オンライン会議)
6月11日(土) 佛青懇和会総会 ②
6月15日(水) さつき会研修会(お寺は私にあいにゆくところ、講師:藤井 良丸 師)
6月17日(金) 法友会総会、大阪教区総会
6月24日(金) 大悲の会編集会議(第46号発送作業・第47号内容検討)

(法友会=住職会、さつき会=坊守会、佛青懇和会=青年会)



■広告募集(『大悲』発行は広告によって支えられています)
企業・団体・寺院の広告を誌面に掲載させていただきます。
1区画(55mm×40mm)、掲載1回につき5,000円です。

■定期購読(ご門徒の皆様方にもお渡しく下さい)
『大悲』の定期購読は、1部につき30円です(送料込)。10部単位でお願いいたします。

表具 八木米寿堂

御本尊掛軸修理 絵画、書の表装

〒600-8073

京都市下京区柳馬場通仏光寺上る

tel 075-351-2853 fax 075-352-3258

協賛

佛青懇和会

大阪教区の青年会
(会長:門川崇志)

協賛

さつき会

大阪教区の坊守会
(会長:玉出みゆき)

協賛

法友会

大阪教区の住職会
(会長:寺田宗隆)



どなた様でもお参りいただけます

法要・法話会のご案内



大阪別院孟蘭盆会

8月13日(土) 午後2時
8月14日(日) 午後2時
8月15日(月) 午後2時

大阪別院彼岸会

9月20日(火) 午後2時
法話：脇阪 義仁 師
9月23日(金・祝) 午後2時
法話：隅谷 俊紀 師
9月26日(月) 午後2時
法話：玉出 宗順 師

本山佛光寺茶所布教

毎日午前7時半
※大阪教区布教使の担当は下記の通りです
7月16日(土)～20日(水)
法話：脇阪 義仁 師
※新型コロナウイルス感染症の影響で中止
となることがあります。直前にご確認ください。



編集秘話

先日で門徒が「大悲は平易な言葉で読みやすく、ありがたいです」「すべて綴じてあり次号も楽しみにしています」と、仰ってくださいました。おもいもよらない言葉が大変うれしく励みになりました。今回号から新しい編集メンバーが加わり、若い感性に刺激されて益々読みやすい誌面にしたいです。(葦名)

編集後記

『大悲』発行も11年目を迎え、今号より新たな編集者として中井翔隆さんが参加していただくことになりました。さっそく原稿も書いていただきました。今後の活躍に乞うご期待！☆最近、大悲の会のメンバーは2週間に1度のペースで別の会議をしています。「何の会議」かはひ・み・つ。これも乞うご期待！(編集長・隅谷)

大阪教区・別院だより『大悲』 第46号(夏号)
令和4年(2022年)7月1日発行 (発行部数2200部)
発行：大悲の会
事務所：佛光寺大阪別院内
〒558-0011 大阪市住吉区荻田6-11-24 電話 06-6691-1362
郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」
ホームページ(HP) <http://daihi.org/> (ご意見・ご感想はHP内の「お問い合わせフォーム」より)

大悲の会
長田 譲(会長) 門川 崇志(監事)
隅谷 俊紀(副会長) 佐々木 太一
寿栄松 正顕(会計) 葦名 彰
玉出 宗順(会計) 中井 翔隆